

行田 歴史系譜 297

歴史を語るこの「いっぴん」
博物館の収蔵庫から

33

忍藩越中島中屋敷鳥瞰図

行田市郷土博物館所有

江戸藩邸は幕府から大名に与えられた屋敷地です。しかし、幕府からの命令があれば屋敷を明け渡さなければなりません。その理由は他の大名の昇進により立ち退かされたり、大名自身が不始末を起こして没収されたり、幕府が使用するために収公されたりとさまざまです。

天保13年（1842）8月、忍藩主松平忠

國は江戸湾沿岸警備を命じられ、富津や竹が岡（現・千葉県富津市）に藩士を駐屯させることとなりました。翌14年2月には目白台（現・東京都文京区）の中屋敷を収公され、警備の中継基地として、隅田川の河口で海に面した越中島（現・東京都江東区）に代地を与えられました。今回紹介する資料はその屋敷の様子を描いた鳥瞰図です。屋敷地の広さは9千607坪ほどで、元々は旗本屋敷や越中島町があり武家や町人が居住していたのですが、幕府はこれを急きよ撤去させ、忍藩に引き渡したのです。町人には引越料として、幕府から174両と忍藩か



越中島中屋敷鳥瞰図

らも595両ほどが支払われました。鳥瞰図を見ると、右下に屋敷が描かれており、その左側や上部に広大な更地があります。おそらくここが砲術練習場で、江戸市中では100目玉以上の実射は禁止のところ、藩は沿岸警備を理由に幕府に願い出て300目玉まで許可され実弾訓練を行いました。左上には庭園もありその外側は江戸湾です。安政元年（1854）7月、忍藩は幕府から品川沖三番台場を引き渡され警備を担当しますが、藩士たちはここから船で台場まで渡ったと思われま

（郷土博物館 鈴木紀三雄）

行田ゼリーフライ研究会

ゼリーフライを行田市の貴重な食文化と捉え、地域の活性化とまちおこしに寄与するため、その存続と普及を図る活動を展開しているのが「行田ゼリーフライ研究会」です。

平成19年に発足し現在8人が所属する同会では、ゼリーフライの名を広めるためのPR活動やさまざまなイベントなどでのゼリーフライの提供を主な活動としています。そうした中、地域のブランド力を高めることを最大のテーマとする日本最大級のまちおこしイベント「ご当地グルメでまちおこしの祭典！B-1グランプリ」には毎回出展しています。

また、古くから親しまれている食べ物があることに誇りを持ってもらえるよう、市内小学校でゼリーフライの料理教室を年1回ほど開催しており、ゼリーフライの誕生の経緯や名前の由来などを話しながら、作り方を楽しく分かりやすく子供たちに伝えています。

「全国の人にゼリーフライを知ってもらうことがゴールではなく、それを求めて訪れた人が行田のことを好きになってもらえるよう、行政や地域の皆さんと協力して活動を続けていきたい」と熱く語る会長の松井秀二郎さん。ゼリーフライの伝導師たちのさらなる活躍が期待されます。

【会長】松井 秀二郎 【電話番号】080-3150-7282

つながる ひろがる みんなのチカラ

～市民公益活動団体紹介～⑭



イベント時にはボランティアの方も一緒に参加

今月の表紙

11月10日、利根導水管理50周年を迎えた独立行政法人水資源機構による「サケ遡上採卵・観察会」が利根大堰で開催されました。水産研究所職員によってサケから卵が取り出される作業を間近で見に来場者はその様子に圧倒されていました。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をデジ版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



市報ぎょうだは再生紙を使用しています